

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1958
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.51, No.3 (1958. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19580301--001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19580301--001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 三田學會雜誌

慶應義塾經濟学会

三月号

## 論 說

世界經濟体制の再調整期……………山 本 登 (一)

政策決定プロセスの一考察……………加 藤 寛 (一七)

沿岸漁業の構造……………高 山 隆 三 (三)

——「漁民層不透明分解」の根拠について——

独占と集中……………原 豊 (四)

——政策論的考察——

## 資 料

紀州北山地方の検地帳……………速 水 融 (五)

ケネー経済表範式の疑義に就て……………渡 邊 建 (六)

——坂田太郎教授の『ケネー経済表』の「訳者解説」を中心として——

## 書評及び紹介

## 経済学関係文献目録

第五十一卷

第三号

昭和三十三年三月十一日発行  
昭和三十三年三月十一日発行  
昭和三十三年三月十一日発行  
昭和三十三年三月十一日発行

昭和三十三年三月十一日発行  
昭和三十三年三月十一日発行  
昭和三十三年三月十一日発行  
昭和三十三年三月十一日発行

三田学会雑誌

昭和三十三年二月号

定価 金九〇円

(送料別)

# MITA GAKKAI ZASSI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 51, No. 2

February, 1958

## CONTENTS

Social Security and the Theory of Social Strata	Page
.....M. Chūbachi	(1)
A Study on the Differentiation of Peasantry	A. Hirano (16)
The Analysis of the <i>Lohmarbeit</i> Problems	K. Imura (42)
in the Recardian School.....	(42)
W. Thompson's Theory of Distribution	A. Shirai (63)
on the History of Anticapitalistic Thoughts...	(63)
The Present Situation of Marketing Research	T. Sato (79)
.....	(79)
Reviews and Notes	

Published for  
**KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI**  
 (The Keio Economic Society)  
 Editorial communications to be sent to  
 the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,  
 Keio-Gijuku University,  
 Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.  
 Price 90 yen

書評及び紹介

C・W・フェルプス著

『企業金融の手段としての売掛金金融』……………片岡一郎(三)

ジャン・マルシャル著

『人間観、世界観一般としてのマルクス主義』……………白井厚(五)

世界経済体制の再調整期

山本登

戦後十年余を経た現段階の世界経済は、しばしば一つの転換期にあるといわれる。周知の如く、国際連合の「一九五五年世界経済調査報告」は、私企業経済諸国における戦後十年間の発展の経過を回顧し、これを次の四つの局面に分けて考察している。<sup>(註一)</sup>

第一局面は、終戦直後から一九四八年末におよびわば戦後の経済危機の時期であり、この期間は、戦争による荒廢地域における極端な生活水準の低下によって特徴づけられる。

第二の局面は、一九四九年の初めから朝鮮動乱にいたる期間であり、この局面は終戦直後の危機によって蔽い隠されていた構造上の問題が表面に現われた時期と見られる。ことにこの期間の経過のうち、根本的な諸問題が、差迫った危機の諸条件が克服された後においても消滅せず、むしろ次第に慢性化してきたことが注目される。世界的なドル不足の形をとる国際的な不均衡は、その一つの典型である。

世界経済体制の再調整期

第三の局面は、一九五〇年の半ばから一九五二年末までであり、朝鮮動乱の局面として、したがって動乱のもたらした原材料ブームとそれに続く崩落並びにその調整の期間として示される。

第四の局面が、その後の新しい拡大の時期であると同時に、本質的な障害にも直面している時期と見る。それは一九五三―五四年のアメリカにおける軽微な景気後退によって妨げられはしたが、一九五四―五五年(さらには一九五六年)に引き続き続いた、いわば世界の高原景気の時期に当たる。しかも現実にはその後の世界の景気は、一九五七年初頭以来、アメリカの景気の低迷を主軸として、不安定な経過を辿り、いわゆる転換期の様相を強めつつあるわけである。もちろん上記のような諸局面を劃する時期上の区分線を、的確に引き難いことは、同報告も自ら指摘するところであるが、戦後の世界経済の「復興から長期成長」(From Reconstruction to Long-Term Growth)<sup>(註二)</sup>の推移を示す上に、一つの基準的な資料と見なしうるであろう。

しかしここではいっそう概括的に、前述の戦後十年間の経過を一